

視察研修等報告書

令和3年11月15日

坂井市議会  
議長 古屋 信二 殿

会派名 創志会

参加者代表 川端 精治

- 1 研修月日 令和3年10月20日(水)
- 2 視察研修先 UMIKARA 福井県大飯郡高浜町塩土5-1
- 3 視察研修内容 基本構想、事業計画、関係機関との相関関係等
- 4 参加者  
伊藤 聖一 渡辺 竜彦 川端 精治
- 5 研修内容の詳細

● 海の6次産業化プロジェクト

高浜町の漁業の現状課題

- ① 漁獲変動が大きく魚価も低調
- ② 後継者不足による漁業従事者の高齢化
- ③ 漁協加工業者は収益が減少傾向



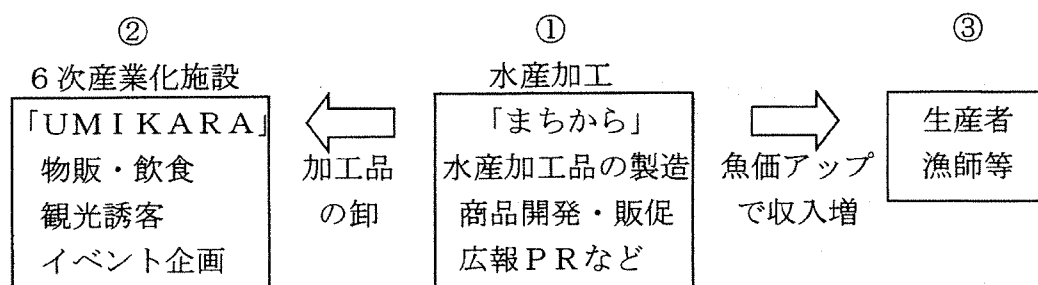
海の6次産業化を実現し、多様で魅力ある漁業経営  
と持続可能な地域づくりを推進する必要がある

- 1次：直売機能の設置等による売上増・・・魚価アップの仕組みづくり
- 2次：加工業の強化による売上増・・・流通の仕組みを变革
- 3次：直売加工機能新設、高い付加価値化・6次化施設の建設

上記の課題を解決することを目的に、高浜町を牽引する「稼ぐ力」の軸となる「海の6次産業化プロジェクト」がスタートした

● 高浜町6次産業化プロジェクトスキーム

- ① 連携事業者の地域商社である「まちから」(はもと加工販売所)による加工品開発の強化
  - ・ 全国ターゲット向けの販売
  - ・ 新しい魚食の提案
- ② 6次産業化施設「UMIKARA」の建設
  - ・ 物販・飲食・イベントによる魚食の普及
- ③ 2次産業(まちから)、3次産業(UMIKARA)による魚食(加工商品)の供給に伴う1次産業(漁師など)の収益アップ



● 高浜町6次産業施設「UMIKARA」事業概要

**漁業が抱える課題**・・・近年の漁獲量減少や魚価低迷、後継者不足

↓ 転換に迫られた漁業の生き残り策が必要

**海の6次産業化**・・・1次産業の再建だけでなく、2次、3次と一体化した取り組みが必要であることから、高浜の

海と魚の魅力を発信するコンセプトで6次産

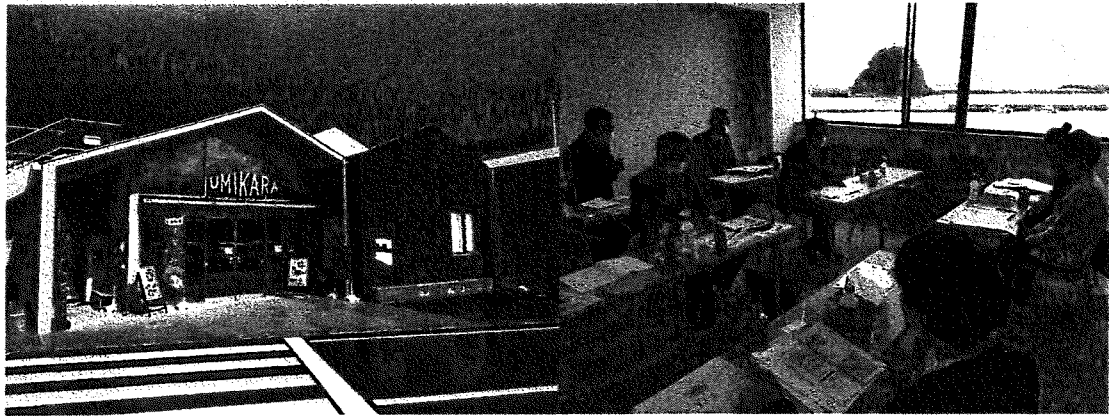
業施設「UMIKARA」を令和3年7月開業

● 「UMIKARA」の目的、目標

- ・ 魚食の複合型マーケットと位置づけ、地域振興や観光の核となる商業施設を開業
- ・ 高浜漁協との密な連携をはかりながら、新鮮な魚介類や加工品の提供
- ・ 食事や土産品による、魚食の提案力を発揮する
- ・ 地域コミュニティの憩いの場の提供
- ・ 漁港近隣の眺望を活かしたプランニング

- 「UMIKARA」の強み
  - ・地元住民をターゲットとした日常需要の取り込み(安定した売り上げの確保)
  - ・漁協からの直接仕入れによる鮮度および低価格での提供
  - ・生け簀を活用することで、通年安定した魚介類の提供および観光PR
  - ・レストランを併設し、物販と連携したメニューの提供
  - ・漁師直売の昼市の開催・・・直接販売によるコミュニケーション&収入確保
  
- 「UMIKARA」のターゲット
  - ・閑散期 → 地元の主婦層  
安価な魚介類の提供と地元サニーマートとの連携による地域密着型の営業展開
  - ・繁忙期 → 京阪神の観光客  
GWや夏季の海水浴客  
高浜ならではのブランド品(若さぐじや鯖)の提供
  
- 株式会社 うみから 施設概要・会社概要
  - ・スーパーマーケット部門・・・地域住民向け→地元のサニーマートが運営
  - ・食堂部門・・・・・・・・・・・・・・セレクトショップで販売している加工品も提供
  - ・セレクトショップ&カフェ・・・観光客向けの付加価値の高い商品を販売

役員 代表取締役 松本俊雄・・・高浜魚商組合長  
専務取締役 高田 明・・・サニーマート経営者 魚商組合員  
常務取締役 河合 徹・・・高浜町職員 うみからへ出向
  
- 「UMIKARA」と行政の関係性
  - ・上記のように高浜町職員が役員として出向(漁協にも別の職員が出向)
  - ・初期投資としてハード整備および施設整備の70%を高浜町が負担
  - ・指定管理制度の導入はされていない
  
- 「UMIKARA」の課題
  - ・入込数は見込みを上回っているが、閑散期および平日は当初計画の7割程度で推移している状況であるため、平日や閑散期の対策が必要
  
- 高浜漁港の今後の展望
  - ・漁港内の「UMIKARA」に隣接した荷捌き施設が現在建設中(令和5年に供用開始予定)で、高浜漁港が再整備される



### 【所見】

#### <伊藤議員>

漁業の衰退は全国各地で起こっている大きな課題であり、高浜町も例外ではない。そのような状況下、UMIKARAを核とした漁港再整備に着手したことは大きな進歩である。

視察当日はあいにくの天候であったが、生け簀や売り場には新鮮な魚介が陳列されており、観光客だけでなく、地元民に向けた目線で販売されていた。

また、多くの6次化商品も開発しており、若狭ぐじ・若狭ふぐの他に若狭クエのブランド化にも取り組んでおり、官民連携の姿が伺えた。

UMIKARAに隣接される荷捌き場も建設中であり、これからの漁師の参画しやすい環境整備が計画されていることは、水産振興に大きく寄与されるものであると感じた。

本市も三国港再整備が計画され、今年度末には新たな施設で稼働することになっているが、運営面や漁業者の参画で民間の意欲向上策が大きな課題である。

#### <渡辺議員>

今年の7月にオープンした「UMIKARA」、体験型シーフードマーケットとして、各方面から超目され、また、漁業関係者との様々な連携が見られるとのことで、その観点から視察を行った。

体験型シーフードマーケットとしては、生け簀を活用するなどの取り組みを行うことで、従来のスーパーマーケットから一歩踏み出した、集客増に向けての取り組みなどが、うかがえた。

また、漁業関係者との連携においては、近年の漁獲量減少や魚価低迷などといった問題を補うべく、「UMIKARA」が、しっかりとした核となり、海の6次産業化へのバックアップを行うことで、次の時代につながる漁業関係者の漁業経営への支援の在り方がうかがえた。

ただ、課題等として、当初予定の入込数は上回っているが、平日は来客数も少

なく、平日等の集客数増をどのように行っていくのかが、今後の課題と見られる。

本市も、三国港市場の再整備を行っているが、いかに漁業および、漁港を活性化させていくかが、大きなテーマとなっている。先行している「UMIKARA」の取り組みをしっかりと精査しながら本市も活かしていくよう研究を進めて行かなければならない。

#### <川端議員>

全国的に危惧されている漁業の衰退が高浜町でも例外ではない状況であった。

三国の3漁協と同様に、高浜町は養殖、定置、大型定置が個々の取り組みをしており連携がはかれていない状況であることから、高浜水産振興協議会を立ち上げ、魚の付加価値を上げるための6次産業化、漁師を含める人材育成を推進していた。

また、高浜漁港再整備計画を策定し、うみからの建設、荷捌き場（令和5年供用開始）の建設に着手しており、大型定置の船も荷揚げが可能になることで、市場運営や輸送体制の合理化につながる取り組みがなされていた。

うみからに関しても、観光客だけをターゲットにしているのではなく、地元住民も買い物ができるように、地元のサニーマートに出店を要請し、繁忙期だけでなく閑散期の売上げをカバーする仕組みとなっており、地域全体で取り組まれていることはこの施設の大きな特徴であった。

本市は、三国港市場を再整備しているが、漁業が持続できるソフト面取り組みが重要であるとともに、熱意ある高浜町職員がうみからや漁協に出向していることから、キーマンとなる人材が三国港市場再整備において必須の課題である。

会 派 内 供 覧
